

明治七年五月

件 典那原親方津波古親方ト交替シ歸藩ニ付西親  
方ニ謁見作付ラレ且典那原親方ハ物臣賜典

外務省

外事右局

卿

輔

右者

津波右親

右局録

右馬

新筆

紀元節

天皇節御祝儀之使者其在番勤之中付  
有旨那翁川出船同九日度受洛難名同十日  
因不出船本之沙掛与吹十日と者仕中  
壯後沙馬中も也

明治元年五月十日

津波  
其那原親

外務省

中

成

寫濟

經流

才之者如牛心等身年七十五

石馬

官

津波古親方交際疎屬即在初更代と

〜本目十下高石等生位伊知知友  
聲考一回出系改一以海及西船多也

明治七年五月十日 外務大臣

史官 志申

知事

外務省

外事右局

右局録

補  
下  
事務録

今日新在番津波岩親  
沙石中也

明治七年九月十三日

琉球藩  
岩親  
岩

外務省

今日新在番津波親方に及次仕中山壯辰  
涉属中山也

明治七年六月三日

琉球藩

長形原親方



外替者  
涉中

外務省  
七月二十七日

外務省

作  
あつた  
あつた

南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける

南洋の諸島に於ける

南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける  
南洋の諸島に於ける

外務省

七五言本

辨事局

右局 伊勢守 伊勢守

福子

琉球藩津波古親方同藩船  
在船トシテ出京與那島親方  
遊々梅藩致仕ト付右名匠  
申付福被 仰付夜台申裁  
之報致函知右主来ル廿日午  
勤勤十時相福被 仰付此旨  
仕好也達有之役右及如

福濟

明治七年五月十八日 宮内卿總大寺賓則

五ノ十八日 五ノ十八日

宮内省

伊勢卿吉島宗則殿

寫濟

23

外務省

七月 陸林は

七月十九日

外務省

環球商法は多親方共形系親方  
以亦。年。前。十。時。在。留。心。似。行。有  
於。結。名。用。定。心。有。系。的。系。心  
也。

明治七年五月十日 外務省

陸林は

此。乃。為。形。系。多。親。方。共。形。系。親。方  
以。亦。年。前。十。時。在。留。心。似。行。有  
於。結。名。用。定。心。有。系。的。系。心  
也。

外務省





辨事局  
 右 局  
 明治十七年五月十日  
 外務省

官内方少丞  
 外務省

寫濟

殊殊者其解系親音以解德意音  
 以系下賜多多之此系以中成之  
 細之知旨旨之  
 了化与知多親者  
 其以價知知之  
 其之知由之知  
 外務省

外務省

明治十七年五月十日

御事

御事

東条主勤

松原藩

與那原親方

右今被東条主勤交代御書

付賜物之旨其旨明廿二日

午前十時當省出頭拜

探出達之旨及此旨及以然

合共也

七年 丑月廿二日 宮内大少丞

丑月廿二日

宮内大少丞

宮内省

外務大少丞

七年

寫濟





輔

重  
章

外  
學  
右  
屬

共  
形  
原  
親  
言

右  
昨  
日  
途  
陽  
九  
日  
宗  
合  
下  
系  
仕  
作  
留

涉  
屬  
尸  
也

琉  
球  
藩

明  
治  
七  
年  
月  
日

津  
波  
古  
親  
言

外  
務  
省

琉  
球  
藩

和名  
西名

野村親雲

右壯節更代沖國之官等跡及政務之縣  
中上之事

中上之事

明治元年四月

琉球藩